E23

まちづくりと防災-親和性と異質性の考察

Machizukuri as A Citizen-Initiative Community Management vs. Disaster Prevention: Communality and Heterogeneity

○岡田　憲夫
○Norio OKADA

These days it is very popular to assume that “machizukuri” and disaster reduction” should go hand in hand as represented by such a slogan “Anzen-de-Anshin-na machizukuri” or “citizen-initiative community management for safer and secured environment.” Comparison is made between “machizukuri” and “community management for disaster reduction,”　and communalities and differences (heterogeneities) are listed. With an actual case study area, some governance and policy agenda are discussed to address gaps (deficits) in implementing an integrated disaster reduction-oriented machizukuri.

１．はじめに

今日、まちづくりと防災を組み合わせた政策や試行がひとつの定番となっている。いわゆる「安全で安心なまちづくり」や「防災まちづくり」という標語がその典型であろう。そのこと自体はもちろん歓迎すべきことであり、また必要なことである。しかし、まちづくりと防災を組み合わせて、総合的に計画・実践するのは必ずしも容易なことではない。計画と実践の間には、いくつかのギャップが存在する。ここではこの問題を、まちづくりとコミュニティ防災の親和性と異質性という観点から議論することとしたい。

２．まちづくりの特性

まず筆者が考えるまちづくりの特性と要件を示しておく。

（１）法定計画としての都市計画とは異なり、準拠する法律に基づかない、地域社会の革新運動やある種の都市運営や都市経営を指す。

（２）空間計画に限定されない総合的な計画・マネジメント事項を包含しうる。

（３）都市計画を職掌する行政や専門家以外の、市民(住民・企業)やNGO・NPOを含めた他主体参加型アプローチを取る。狭義には、市民主導方式を指す。

（４）地域コミュニティからのボトムアップ(積み上げ)方式が主流となる。

（５）必ずしもプロジェクト方式を取らないため、時間的区切りや目標達成度の確認が明確でなくなるきらいがある。

3. コミュニティ防災の特性

<u>まちづくりとの親和性</u>

a) まちづくりの要件(2)～(5)と重なる特性を持つ。

b) まちづくりの要件(1)に関して言えば、多岐にわたる災害対策関連法規があるが、必ずしも準拠する法規に即して行うものではない、という点で、まちづくりの要件(1)とも相似性がある。

<u>まちづくりとの異質性</u>

c) 災害が実際に発生した時点で、事前から事後に文脈が変わる。事前計画と事後計画では計画の内容や性格が大きく異なる。

d) 災害のトリガーとしてのハザードや脆弱性・暴露性とその不確実性を含めた災害リスクのマネジメントが求められる。

e) d)の多くの情報・知識と技術は専門家が有している。市民は自分たちが住んだり、働いたりしている地域性についての情報・知識や生活の知恵を持っている。このため相互学習が不可欠であるが、容易ではない。

4. むすび

実は、上記の親和性や異質性も、かなり皮相的なもので、もう少し煮詰めて考えると、その反対の側面や、折衷的な側面も認めうる。この点については、講演時に触れることにする。